

## 令和6年度第1回京丹後市新経済戦略推進会議 会議録

### 1 開催日時

令和6年12月24日（火）13:00～15:00

### 2 開催場所

京丹後市役所峰山庁舎 201 会議室

### 3 出席者等

■出席者 行待佳平会長、久米一郎副会長、錦織隆委員、山崎俊巳委員、奥野美奈子委員、小野寺由美子委員、河野修己委員、浅井智美委員、尾崎至弘委員、福岡崇委員、福島和彦委員、田中智子委員、宮腰英明委員、森下裕之委員、足立眸委員、中山泰(京丹後市長)、椋平智博(オブザーバー)、白江喜之(オブザーバー)、笠原和史(オブザーバー)

■欠席者 松田智生委員、田茂井勇人委員、八隅孝治委員

#### ■事務局出席者

京丹後市

商工観光部

高橋尚義

商工観光部商工振興課 金木美由紀、田中勝茂、松本隆明

### 4 内容

- (1) 委嘱通知書交付
- (2) 委員紹介
- (3) 開会あいさつ
- (4) 京丹後市新経済戦略推進会議について
- (5) 正副会長の選出
- (6) 新経済戦略推進会議の進め方について
- (7) 京丹後市の地域経済動向等について
- (8) その他

### 5 公開又は非公開の別

公開

### 6 傍聴者の人数

0人

## 7 要旨

### (1) 委嘱通知書交付

○事務局 開会に先立ちまして、委員及びオブザーバーとしてお世話になる皆様に、中山市長より委嘱通知書の交付を行いたいと思います。委嘱を受けていただく代表としまして、京丹後市商工会会長の行待佳平様、その場でご起立いただけますでしょうか。

(委嘱状交付)

○事務局 ありがとうございました。

その他の委員及びオブザーバーの皆様につきましては、席上に委嘱通知書が配布してあります。時間の都合上皆様の紹介をもちまして、交付にかえさせていただきますので、ご了承ください。

また、本日ご欠席の皆様とオンラインでご参加いただいております皆様につきましては、後日郵送にて委嘱通知を送付させていただきますので、ご承知おきください。

### (2) 委員紹介

○事務局 それでは、委員の皆様のお名前を読み上げさせていただきます。

関西経済連合会常務理事、久米一郎様。

京都工業会副会長、錦織隆様。

元総務省大臣官房総括審議官、山崎俊巳様。

株式会社京都銀行常務取締役、奥野美奈子様。

株式会社三菱総合研究所主席研究員、松田智郎様、本日はご欠席です。

京都高度技術研究所地域産業活性化本部京都市桂イノベーションセンター事務局長、小野寺由美子様。

京都大学イノベーションキャピタル株式会社事業企画部長、河野修己様。

京丹後市商工会会長、行待佳平様。

京丹後市商工会青年部、浅井智美様。

丹後織物工業組合理事長、田茂井勇人様。本日はご欠席です。

丹後機械工業協同組合理事長、尾崎至弘様。

京都産業 21 北部支援センター センター長、福岡崇様。

京都中小企業家同友会丹後支部副支部長、福島和彦様。

京都府北部地域連携都市圏振興社京都京丹後地域本部理事長、田中智子様。

京丹後エムズカード会会長、宮腰英明様。

株式会社田園紳士代表取締役、森下裕之様。

株式会社あしあと代表取締役、八隅孝治様、本日はご欠席です。

京丹後経済新聞代表、足立眸様。

以上 18 名の皆様に委員としてお世話になります。

加えて、オブザーバーとしまして、京都府丹後広域振興局、農林商工部長、椋平

智博様。

京都府織物機械金属振興センター所長、白江喜之様。

京都府商工労働観光部、産業振興課参事、笠原和史様。

以上3名の皆様にお世話になります。どうぞよろしく願いいたします。

### (3) 開会あいさつ

○**中山市長** 今日には本市の新経済戦略推進会議、立ち上げに大勢の皆様にお集まりをいただきました。本市内の方、また、東京大阪さらには京都初め各地から、リアルまたはリモートでご参加いただきました。本当にありがとうございます。

そしてまたお立場も、産学官それぞれの大切なお立場から、そしてまた京都府からもご参加をいただいて、京丹後のこれからの経済発展を推進していく上で大変心強い限りに思っております。本当にありがとうございます。

さて京丹後市の経済をめぐっては、新型コロナウイルス感染症が平常に戻ったわけですが、ほぼ重なるように諸物価高騰など、継続して断続して今に至っているということで、いろんな課題が抜けきらない、総じて厳しい状況の中にあるということかなというふうに思っております。

そんな中、一方で、我々時代のいい意味での変わり目にあるのかなというふうに思いますのは、経済を支える人流・物流の大動脈であります、山陰近畿自動車道があと3年前後で、市最大の商業集積地域の近辺に、直接入ってくるということでもあります。同時に、兵庫県域までの全線のルート決定の手続きも公式に入っただいて、以降順次市内各地にアクセスが届いてくることを具体的に展望しながら、経済、まちづくりの展望を描いて進めることができる時代の入口に入ってきているということでございます。これをしっかりと共有しながら、生かしていきたいなというふうに思うわけですし、同時に、DXの社会実装が格段に進んで、距離の制約にいろんな社会経済活動の課題を持ってきた地域にとってみれば、地の利をいただける時代かなということ、いわば地の利が整ってくるということかなというふうに思っております。

そして同時にもう1つは、コロナの後で、社会の価値観とか、社会的嗜好といったものも、いわゆる命とか健康とか、安全安心とか、豊かな自然環境とか、そういったものに対する、この世界全体もそうだと思うんですけど、社会全体がそういったことへの志向を高めつつあるということかなと思いますときに、そういった支援なり価値観の素材の方向は京丹後でありますので、そういう意味で時代の追い風をいただける時代にも入ってきているのかなと。今こそ、みんな力で合わせてこの経済、また社会活動の活性化を果たしていきたいというふうに思っています。

もう1つ紹介したいのは、我々の地域はですね、実は事業所の数ですね、京丹後市内の経済界の事業所の数、これ調べたら、人口5万人以上の自治体で、人口比でいうと、日本の中で2番目に多い。事業所が多い、小さいところが多いとは思いますが、多いまちということで、日本でトップクラスに社長さんが多い町であるということは、これはしっかりと共有して活かしていきたいといけ

ないと感じております。いわば、経営力に溢れている、経営力を志向する経済人が日本の中でもトップクラスに溢れているまちが、京丹後だということはどう生かしていくかということだと思えるんですね。この経済人の力の輪を合わせることで、地の利を生かして、そしてそんな、人の中で盛り立てていくことが、多彩に豊かに生きるんじゃないかなというふうに、可能性としては感じているところでございます。大切なのは京丹後の人だけではなく、今日この戦略会議にたくさんの方の素晴らしい方が参画していただいて、一緒になって京丹後の経済のこれからを考えていただけるということで、そんな、全国の各地の素晴らしい方々の人の輪をいただきながら、この戦略を描き、また明日、未来の、我々のまちの経済の発展に向け、お知恵とお力をいただきながら進めていきたいなというふうに思っております。どうぞお力をお貸しくくださいますように、どうぞよろしくお願い申し上げます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

(中山市長、他の公務のため退席させていただきます)

#### (4) 京丹後市新経済戦略推進会議について

事務局から資料2に基づき、京丹後市新経済戦略会議についての説明

#### (5) 正副会長の選出

○事務局 商工業総合振興条例第24条に規定されております、会長及び副会長の選出について、同条第2項によりまして、委員の互選により定めることとなっております。

委員の皆様の中で、立候補推薦はございませんでしょうか。

(「事務局一任」の声)

○事務局 事務局一任の声がありましたので、事務局から事務局案としてご提案させていただきます。会長に行待佳平委員。副会長に久米一郎委員をご提案させていただきます。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

○事務局 ありがとうございます。それでは、会長は行待佳平委員、副会長は久米一郎委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それではここからは、行待会長に議事進行をお願いいたします。

○行待会長 会長ということで、選出されまして、身の引き締まる思いです。平成25年以降、当然コロナもありましたし、それから、世界情勢としてはウクライ

ナの問題や中国のいろんな経済事情、それから中東の問題と、世界が目まぐるしく変わっている中で、京丹後経済の中でも、大いにいろんな産業がある中で、海外との結びつきも密接に関わっているなというふうに感じています。今日の会議は、現状の把握やそれから未来に向けて皆さんのお知恵を借りながら、戦略を立てていくという会かなと思っております。皆さんの忌憚のないご意見をいただきまして、この会議がスムーズにいくようお願いを申し上げまして、一言ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

(6) 新経済戦略推進会議の進め方について

事務局から資料3に基づき、新経済戦略推進会議の進め方について説明。

(質疑応答及び意見)

なし

(7) 京丹後市の地域経済動向等について

事務局から資料4、資料5、資料6に基づき、京丹後市の地域経済動向等について説明。

(質疑応答及び意見)

- 委員 事業所がかなり減っているという説明を受けましたが、これはそのまま廃業されているのか、それともどこかへ移られているのですか。
- 事務局 基本的には廃業されている方が多いかというふうに考えております。
- 会長 やはり繊維産業の廃業が多いのと、高齢化が進んでいるということが、ひとつの大きな原因かなというふうに思っております。
- 委員 女性の労働力比率が高いということですが、これは会社等に就職されている方ですか、それとも事業所の家族従業員も含めた数でしょうか。
- 事務局 令和2年の国勢調査のデータによるもので、就労形態については会社勤めの方もあれば、自営業の方などいろいろな形態となっています。
  
- 会長 それでは各委員様から、京丹後市のこの地域経済の発展に向けて、日頃の活動を通しましてですね、感じておられる、重要なことや、必要と思われること、それから、今キーワードがありましたけども、キーワードにつきましてご発言いただければ、お願いしたいと思います。
  
- 委員 京都大学の100%子会社でありまして、主に京都大学発のスタートアップに投資して、京都大学の研究成果を活用した新産業を生み出すことを目的として活動しております。これまで9年間、当初やってきたんですけど、半分程度はやっぱり京大大学発スタートアップなので医学部系ですが、大きな特徴として2番目に大きいのが、いわゆるものづくりですね、素材とかエネルギー、化成品、電子機械が京都大学は非常に強くて、そこに対する投資も多く有望なスター

トアップも生まれつつあるということです。

この社会的キーワードを拝見しますと、特にものづくりの部分でいろいろとアイデアをご提供したり、或いは京都大学の研究成果のスタートアップと一緒に協業できるんじゃないかなという部分がありますので、これからもいろいろ発言させていただければと思いますよろしくお願いたします。

○委員 人材の確保がすごく難しいっていう話題がよく出ています。そういった点も考慮してこの策定に意見ができればと思います。コロナ以降、社会の構造が大きく変わり、私自身の価値観も変化してきました。生成AIなどのサービスが充実する一方で、パソコンが登場して三、四十年経った今でも、使いこなせる人とそうでない人の間に大きな差があります。今後、生成AIを活用できる人はますますスキルを向上させ、使えない人との格差はさらに拡大するのではないかと感じています。そういうときだからこそ一次産業に力を入れて、デジタル技術を使いこなせていない人の受け皿として活用することが重要ではないかと思っています。AIを活用できる人の中には、業務の効率化によって時間的な余裕が生まれる人も増えてくると思うので、そうした人材を地域に誘致し、農業や林業に携わっていただくというやり方もいいのではないかと思います。

○委員 ついこの前、京都府知事にも要望書を提出させていただいたんですけど、一番がやっぱり高速道路の早期全面開通と4車線化を強く押してきたんです。高速道路検討委員会にも入っているんですけども、その中の資料の人の移動に関する資料で、京丹後市は近隣市町と比較して、京丹後だけ出る人の方が多かったんです。福知山市や舞鶴市や豊岡市は、よそから来る人の方が多いというような、そんな資料を見せていただきまして、京丹後市だけが出る人の方が多いのかなと。その辺をなんとかできたらいいのかなというふうに感じています。

○委員 京丹後にこの4月に来て、半年ちょっと過ぎまして、その中でやはり先ほどのご説明にありました通り、非常に機械金属加工業とか製造業の集積地になっているなというのを実感しています。ただですね、例えば他府県の方々を京丹後につれてきて、企業さんにご紹介するような事業があるんですけども、皆さん口をそろえて丹後にこんなにたくさん製造業があるって知らなかったというようなお話を聞きます。そういう意味で言うと、あるけれども知名度がないっていうのがひとつ大きな課題なんだろうなと思います。

もうひとつは、逆にまた企業さん回らせていただくと、非常に物を作る力はあるなと思うんですけども、その一方で自分のところからこういうものを作っていこうというお話は非常に少なく、割と受け身なイメージがあるんですね。今回資料6で社会的キーワードを出していただいていますけれども、自分とこでこういうものを積極的にやっっていこうというふうなリードする企業が、ちょっと少ないのかなという印象を今のところ持っています。そういった部分をうまくリードできるような提案ができればいいのかなというふうに考えてい

るところです。

- 委員 いろんな課題がございますが私今個人的に思っているのはやはり、高齢化の中で、免許の返納をする方が、全国的には増えているのかもしれないですけどやはり、この京丹後の交通網の中ではなかなかそれが決断できないという方がたくさん周りにいらっしゃいます。やはり高速とか大都市からの大きな交通網も大事ですし、その地域の中のコミュニティーの交通網を今後どうしていくかということが課題だと思っております。

あと仕事から建築不動産なので、移住を希望する方と接する機会が多いんですけども、移住を希望する方は多いんですけども、やはり雇用とか、あとは教育ですね、都市部で受けられる、塾とか教育とか、そういったものが京丹後市で同じように受けられればという話をここ最近聞いたので、そういったところも考えていきたいなというふうに思っております。

- 委員 人の流出流入、動き方の中で、文化度が低いというか、隣の豊岡なんかは大きな本屋さんができていたりとかしますね。そういう部分で、京丹後市の都市がきちっと整備がされてないのがひとつ大きな、合併はしたんですけどももう少しきちっと、6町の町の特徴を生かしながら、拠点を3つぐらい整備するような取り組みがあるのでないかと思えます。雇用だったり教育という部分でも、今は中学校ぐらいから、兵庫県や都会の方に教育を求めて出られる方たちもあつたりもするので、その辺が市全体として気になるところです。

観光については、知名度というところで、広報ということはすごく重要なことで、人に物を伝えていく、それを伝え続けていくというところは、ものすごく重要です。京丹後市は今非常に、こちらを見ていただいている状況にあります。日本全国、世界から見ておられる状況があると思います。個人の方のインバウンドも確実に上がってきているのも確かです。お酒なんかも無形遺産登録されましたし、素材がいっぱいあると思うんですけども、それらが整理されて、もう少し伝えるというところを整理していかないと、物づくり、それから第1次産業は一番大事なところだと思うんですけども、それが伝わっていない、伝わりきっていないと感じております。

- 委員 エムズカード会は45から50店舗ぐらいの会ですけども、その中で、商店というのは京丹後市民の最前線でいろんな苦情を聞いたり、いろんなことをしながら商売をしていく。その最前線の場所にありますして、いろんなことを聞くんですけども、やっぱり先ほどから言われているような広報に対して、今非常に思っております、新聞というものを、若い人がとっていないので、最近チラシという媒体が、かなり広報能力を失ってきているというのがひとつ。あと、高齢者も年金生活になると新聞を取らないということで、新聞によって今までやってきた広報活動というのがかなり狭まれてきて、後でイベントしたのに知らなかったと苦情をもらったりすることがあるんです。

それから、いろんなポイントもアプリに移行していつているんですが、女性の方は70代の方でもスマートフォンを使えるが、心配なのは、男性の方で、50代でもなかなか厳しい人が多いという現状です。

あと空き家対策等で思っているのが、古民家再生とよく言われるんですけど、事業をやめられた方がまだ住んでおられて、店舗部分が空いているという状況の店舗を、テナントとして貸せるような、二世帯住宅じゃないですけど、テナントと住む場所を別にして貸せるようなことも、古民家だけじゃなくて考えていくと、初期費用を抑えながら商売をしていけるという点ではいいのではないかと考えております。

○委員 私は10年前に京丹後市に移住してきました、現在農業の活性化を目的として会社を運営させていただいています。主に比較的若手の農家さん40件ぐらいと連携して、その農家さんたちが喜ぶというか、経営が向上していくような取り組みができないか手探りで、現在も事業を広げているという感じです。その中では、お話をさせていただくと、私は主に都市部への仲卸業であったり、農業に関連するイベントの企画であったり、あとは、東京都内での飲食店もさせていただいているのですが、その中で感じたこととしましてはやっぱり京丹後市の農産物って非常に品質がいい農家さんが多くて、都会でも非常に評価が高い印象を受けております。でも、全然知らない人が多くて、物量が少ないということも考えられるんですが、もっと継続的にPRできるようなことをしていけば、より多くの人に京丹後市のよさ、京丹後市の農産物のよさが伝わっていくんじゃないかなと考えております。

私も東京に社員を置きまして、継続して検討していろいろと活動しているんですが、その中でマルシェなどにも出店継続していまして、やっぱり1回のマルシェに出るのではなくて継続して出ることによって、リピーター率が高い印象を受けております。ですので、単発PRイベントも重要ですが、それだけではなくて継続してできるようなPR事業をしていくことでより多くの人、京丹後市のよさを感じてくれるんじゃないかなあというふうに、思っております。

○委員 私はWebメディアの運営をしていたりとか、人材系の仕事をしていまして採用支援だったり、移住支援のお仕事もさせていただいております。私自身1年前に京丹後市に引っ越しをしてきて、今年の1月に開業して、ビジネスをしています。

広報面のことですが、私もすごく感じておりまして、京丹後経済新聞、月間5万から多いときは10万PVほどございます。そちらの方見ていただいているユーザーの方の属性として、大体20代から40代後半の方で特に京都府内だけではなくて、大阪が20%、東京が20%と兵庫県が8%と、結構京都府外の方から見られているような媒体になっております。このことから伺える通り、京丹後に結構注目が集まっている状況かなということを感じていまして、ここをさ

らにしていくために京丹後を面で発信していくことは必要かなと思っていますし、私がいろんな事業者さんを取材させていただいている中で、小規模事業者さんがすごく多いので、広報面ってすごく自分でやるのは大変だというお話を聞きます。それはしっかりと、いろんな事業者が協力をして、広報は強化していくことが必要じゃないかなというふうには感じております。

他には、ローカルベンチャーという言葉が最近すごく聞かれるようになってきていると思うんですが、このローカルベンチャーですね、京丹後の自然資源とか、産業とか、もともとその京丹後にある人をしっかりと生かしたビジネスの創出をしていくようなものが、ローカルベンチャーだと思うんですけども、そういった京丹後に根差したビジネスを作っていくというところの創業支援とか、創業はかなりたくさんの方がしていると思うんですが、創業後、ちゃんとそれが成長していけるような支援っていうのもすごく大事だと思っています。与謝野町にローカルフラッグという会社がありますが、あの会社の社長さんは20代後半の社長さんで、与謝野町の牡蠣殻とかホップを生かしたビールづくりをして全国に下ろしていて、今2億円ぐらいの売上規模になっているそうです。京丹後もそういった、億を稼げるようなローカルベンチャーを作っていくのはすごく大事なかなと感じております。

あと女性の就業とか企業っていう観点でいきますと、女性の創業支援とか就労支援っていうのはすごく多くあるんですけども、創業した後に、その方が結婚して子育てをするときの支援がほとんどないなというふうに思っていて、雇用保険がないので、育休産休が取れない状況の中で、どうやって子育てをしていくかっていうところは、何かこうサポートがあってもいいんじゃないかなというのを常々感じております。

○委員 関経連の取り組みとしまして、現在地域課題への解決への貢献ですとか社会課題への取り組みというのは、大きなテーマになっており、会員企業のリソースを生かして様々な取り組みを進めているところでございます。

今後の取り組みにつきましてはキーワードといいますとまず人口減少の中で、高付加価値化を進めていくことが何より重要だと考えておりました、そのための1つとしてはインバウンド、すでにお話ありましたが、さらに積極的に取り組んでいく必要があると考えております。

午前中に万博首長連合の方とお話した際に、京丹後市は長寿のまちということで、それをPRしていると伺っておりますけれども、それを万博の会場でもPRすると伺っております、非常にいい取り組みだと考えております。

そういった取り組みを万博後もレガシーとして、そのインバウンドの流れを掴んでいくということが重要かなと思っております、関経連も関与しております関西観光本部という地域のDMOがございまして、そういったところとの連携もサポートさせていただけるのではないかと考えております。

また製造業の交付加価値化も重要だと考えておりました、以前、ながすな繭さんとも、我々お話をいろいろさしていただきましたけれども、やはり生糸産業の

高付加価値化というところで、いい取り組みではないかなと考えておりました、そういったことについて、我々としてもご協力できることがあるのではないかと考えております。

また伝統工芸ですとかそういったことにつきましても高付加価値化の可能性があるのでないかと考えております。

我々京都府織物機械金属振興センター様とも連携しておりますので、そういった面でも、ものづくりの高付加価値化にも一定の関与ができるのではないかと考えております。

いずれにしましても何よりも関係人口の拡大といいますか、京丹後の中だけでは十分解決できないことがたくさんあると思いますので、関経連としてもしっかり連携して参りたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○委員 出席をする立場としては京都工業会という立場だと認識をしておりますが、それ以外にも京都経営者協会ですとか、京都産業 21 ですとか、そういうところにも関わっておりますので、そうした観点から、考えてみたいとは思いますが。やはり何といたっても産業振興ということに一番、私としてはですね、興味をたくさん持っているというか、ここをやるべきではないかというふうに思っております。そうした観点から見たときに、皆さん方からも意見が出ておりましたけども、ひとつはやっぱり高速道路ですね。この前市から、3つのルートについてどう考えている意見を聞かせろというような手紙をいただきまして、その中にも幾つか書いたんですが、一つは京丹後市から出て行く人が多いというご発言もあったんですが、もちろん出ていて帰ってきて欲しいのと、やっぱり外部からたくさんの人に来て欲しいと思っています。その中で、京都府が主体になって作られた丹後王国が、これ全くルートから外されているんですよ。一番近いインターチェンジ予定地からも結構離れている。せっかくいい場所、膨大な場所がある。これをうまく使うことを考える必要があるんじゃないかなというふうに思います。

また、地域には 100 社以上の機械金属関係の会社があります。私どももそういう関係の仕事をさせていただいているのですが、最近メディアを非常ににぎわしているのが、ホンダと日産と三菱等、こういうところは今後どうなるのかというところで、私どもも自動車関係に関わっているものですから非常に心配をしている一方、逆に大きな期待も持てるのではないかなとも感じています。ただ、心配事項としては、統合することによって、私どものような部品産業にとっては、非常に大きな心配としては、もう切り捨てられると。事実今、そういう状況にありますので、この辺の対策が必要ではないかと思っております。

それからもう一つは産業構造を支える人材、これが非常に大事だと。これはかねがねそう思っているのですが、中でもやっぱり、ものづくりをする中で新しい商品、製品を開発する、設計する高等人材が必要なんですけども、なかなか自分たちだけでは育てられない。そういう問題があります。先ほど人口が減ってきますよという話ありました。高校生が卒業するとほとんど出て行って帰ってこな

いと。結果 10 数年で 1 万人の人口減ということになっていると思います。この対策で先ほど奨学金の話も出ていますが、奨学金私共もやっていますが、残念ながらあまり効果はありません。そういうことも含めて、外部からの優秀人材をいかに引き込むか。やっぱりここはやる必要があるなというふうに思います。

それからこの市内を考えても、人不足の業種もあります。それから逆に人あまりの業種がある。この辺の人材マッチング、これをうまくやることによって人不足と人あまり、その辺の交流がうまくできるような仕組みづくりが必要じゃないかなというふうに考えております。

○委員 私もいつも京丹後にお邪魔するときには、車で移動しているので、あともう少しというところが、今回本当に、近いところでより良くなるっていうのは、すごく良いなと思っています。ここ直近、あえて京都から普通電車で、丹後や西舞鶴、北部をグルグル、コトコト、始発で行ってみたりしたんですけども、その中で、交通の問題というのは、京都丹後鉄道もありますので、自動車も大変便利になりますものの、一方観光という意味では、ゆっくりじっくり回るコンテンツもあるというのが、環境的にはとても面白いなというふうに思っています。

京都市内で織物事業者さん、伝統的な織物事業者さんたちが、未来に自分たちの織手を残すであるとか、素材を残すということで、一部の皆様が、すでに丹後に工房や工場に着手するという、回帰策のような形が、最近少し見てとれるようになってきたかなと思っています。それだけ人や、技術やノウハウというのが、今まだ京丹後市には十分残っているので、今だから、早く手をつけないといけないというようなものが、ものづくりの点についてはとてもあるのかなと思っています。そういう意味でいくと、人口は、移住者で若干頑張って伸ばしてはいただいていますものの、流出の方が間違いなく多いので、そういう意味でいくと、府外、市外、京都のみならず、兵庫、福井、こういったところや全国、海外といった、京丹後にまつわる人たちをいかに作っていくかということが大きなポイントなのかなと思いつながりながら聞かせていただいています。

一方、国内だけを見据えるのではなく、海外旅行者という意味ではインバウンドですし、そういう意味ではものづくりという観点では、やはり海外への販路というところで、だからこそ、働く人と技術が京丹後に、いわゆる、育てて残っていくということなのかなと思っています。

観光という意味でいくと、ものすごくこの 7 年間通い続けておりますので、いったところがないように、消し込んでおりますけれども、まだまだご存じじゃない方々に、この京丹後の魅力をお伝えするだけでも、なかなかもういいやんって思うことが全くないぐらいですね。一つ一つの事業者様であったり、一つ一つの施設との、いわゆる横繋がりでの連携であったり発信であったりというのは、まだまだ、もっともっと必要なというふうに思っています。

あとは、振り切れるほど京丹後を示すようなワードでの観光というのは、いくつかあると思いますけれども、こういうものを目玉にしていくというのが施策

としても必要ではないかなと考えています。

○委員 京都市の西京区の区民委員というのもやらしていただいています、課題が本当に一緒だなあと思っております。人口の減少、そして産業の創出、人口減だけではなく、人口の流出ですね、そういったところも、非常に似ているなどと思って、お話を聞いておりました。京丹後市というのは本当に私にとっては、どちらかという遊びに行く場所ってというような感じで、受けておりましたけれども、京丹後市のカラーって何だろう、歌って何だろう、踊りがあるのか、食べ物は、お祭りは、スポーツ、スポットはどんなところか、いろいろちょっと探しておりました。その中でやはり、食べ物ってというのが非常におっきいなあと思っております。冬になったらカニも食べに行きたい、いろいろなもの食べに行きたいと思っておるところではございます。

その中で、新経済戦略という話になりますと、やはり企業をふやすことが必要になってくると思いますし、企業をふやすとなると、企業誘致、工業団地の整備、インフラ整備ってというのが続いてくると思います。産業を増やすとなるとイノベーションの創出、既存産業の活性化、そういったものなのかなと思います。また人口をふやしていこうと思うと、これ並大抵じゃないと思いますが、産み育てやすいまちづくり、女性にお金をかけていく、こういったことも必要だと思います。あと、減っていく労働人口は、高齢者や、女性、障害者の活躍、こういったところも、手を抜けないところかなあと思っております。

そして、京丹後市の今あるものを利用するという、バージョンアップとか、コンバージョンといったところで、今ある山や海や、農産地、そういったものを情報の発信力でやっていけたらいいなと思います。また、おいしいものや温泉もたくさんありますし、京丹後茶でしょうか、そういったものも私存じ上げなくて、京丹後茶、煎茶や番茶ほうじ茶の他に、今非常にブームになっている抹茶にできないのかなあとも思っておりました。

あとお酒もたくさんあるので、今後世界に発信していく、これ発信力が必要になってくるのかなあと思っております。

○委員 私自身は皆さんとお立場が多分異なっていて、京丹後は何度もお伺いしているので、まちの様子から、これまでの取り組みについても、かなり勉強しています。僕自身はちょっと皆さんと違った、外から見た立場で違ったことを申し上げます。まず平成25年に前回作った戦略の総括をきちっとしておいて欲しいなと思います。当時、望ましい姿を皆さんでプランニングしたものが、実際、どこまでできたのかということの評価はきちっとしておくべきだろうと思います。

その際に、達成できなかったものはどういう要因が背景としてあるのかということの要因分析をきちっとしておいていただきたいと思います。その上で、今回、皆さん個別にこういう取り組みしたほうがいいだとか、京丹後市が持っている地域のポテンシャルについて、いろいろのお話があったと思います

が、ひとつの望ましい姿を議論して、理想像を描く必要があるんだろうなど。このまま放つといたらどうなるのかというその差分のところで、個別の課題がたくさん出てくるはずなので、その課題感が、実は複雑に絡み合っていることが多いんですが、その中でもレバレッジが利く事項と、絶対的に解決しなけりゃいけないんだけど、自ら自分たちの地域で完結してアプローチできるものと、外の人たちの力、広域の力が必要なものとか、もしくは国に制度として改正していただかないといけないようなこともあったりだとか、その辺をしっかりと要因分析をした上で、市町村合併しておりますので、各地域のそれぞれのポテンシャルのよさをどうつなぐかということと、対立軸も起こりうるので、ステークホルダーの人たちのコアな部分でのコミュニケーションをどうするか、とかいう取り組みについての方法論についても、この機会に整理していくことが大事なかなと思っています。

また、おのずとして環境要因が変わってくるわけですよ。特にテクノロジーの生成AIを中心に、テクノロジーの日進月歩のスピードが非常に速いです。その技術にアクセスしやすい人たちと、そういうのなかなか難しいよねと言って、拒否反応を起こしてしまう、こういうパターンがあったりするんですけど、その部分はリスクリングだとか、ある一定希望がある人たちを救っていけるっていうか、チャレンジできるような、制度設計を丁寧に作っていく必要があると思いますし、その際に、そういう教育をやっていただける、その地域の中にそういう機関があればいいんですが、そうでない場合は、大学だとか、専門学校だとか、外の人々の意見をどう組み込んでくるかということも非常に大事になってくんじゃないかなと思っています。

進め方としては、今言ったようなことを、川の上流から問題意識を理想の世界をどう作るかということの、分析をした上で組み立てていくっていうのを、短い回数でしようけどしっかり取り組んでいただければよろしいのかなというふうに、私は考えております。

**○オブザーバー** 私は京都府の出先機関として、この2市2町を担当している立場からということになると思うんですけども、それぞれにまちの特徴がある中で、やはり京丹後市は一番広大な面積もあり、企業数も非常に多いといった特徴をこれまでから委員の皆様がお話されている視点、やはりこれからどんどん、テクノロジーの進歩などが出てくる中で、ここに住んでおられる方々がどのように変わっていきけるのかなというところも1つのポイントになるかなと思っています。

ひとつには先ほど委員の皆様からも受け身であると。ここはちょっと丹後市の特徴もあるのかなと思ったりもするんですけども、そういったことが若い人たちがまた違う形で、元気になってくれれば良いなど。

また、高速道路が整備されていくというこれひとつ大きなことになると思います。これは物が出て行く、人が出ていくだけじゃなくて、逆に物が入ってきたり人が入ってくるチャンスでもあると思っていまして、これからの企業、ものづ

くりもこの場になくても、よその地でいろんな設計ができたりその情報を共有したりできるので、もうちょっと広い目で見て、外にいる人をそのままこちらのもので活用する、関係人口の拡大と話しましたが、そこのあたりが非常に重要になってくるんじゃないかなと思います。

○オブザーバー 私は京都府が設置する公設の試験研究機関ということで丹後の基幹産業、これまで丹後を支えてきて織物業と機械金属業の技術面でのサポートする機関としてお仕事をさせていただいております。

先ほどの経済動向のお話にもありましたけれども、繊維工業の事業所の減少、これもいわゆる機屋さんですね。個人でやられているような、出機さん、いわゆる機屋さんが激減しております。非常にこの廃業の率が高いですね、高齢化が進んでおまして。一方では機械金属の方で言いますと、最近ではですねよく企業訪問をさせていただくんですが、原因不明の受注減みたいなことで、リーマンよりも悪いというふうなお声も、ちょうだいもしているところでございます。私どもそうした中で事業者の皆様が引き続き事業継続をしていただけるような支援をしていきたいなと思っております。

織物の方で言いますと、和装以外の用途への新しい商品の開発であるとか、新しい分野の進出とか、海外への販路の開拓とかいったようなそういう新しい分野にチャレンジしようというふうな動きもありますし、機械金属の方の分野で言いますと、宇宙分野ですね、今後 20 年後の機械金属を見据えて新しい分野にチャレンジしようというふうな取り組みが始まったところでございますし、そうした新しい取り組みを支援するとともに、織物業と機械金属がこの丹後地域を支えていけるような支援を今後とも行っていきたいと思っております。

○オブザーバー 私の方では北部地域の産業振興の担当もさせていただいています。今日の会議に参加するにあたって、皆様のご意見を伺いながら、私としてやはり冒頭の市長の言葉がすごく刺さりまして、経営力に溢れるまち、丹後ということですね、ここひとつ、今後の戦略を考えていく上においては大きな作戦のコアになってくる場所もあるんじゃないかなと感じております。

これまでどうしてもその北部地域の場合ですと、高校卒業された場合、大学なり就職なりで都市部に出ていく、その時にどちらかというところ、大企業志向というか、有名どころというのがあるかと思えますけれども、やはりこれからの時代はむしろ先ほどからお話出ています起業、創業といったことですか、事業を担っていく、そういう人材になるっていうのも、大きな方向性としては考えられるところですので、そこを、例えば一旦出られても、また丹後に戻ってきて、事業を担うような人材になっていただくような、そういったサポートを、我々としてはしっかり、発信力を高めるとともに、戻ってこられるような、マッチングの仕組みとか、そういったところで、貢献していきたいなというふうに考えています。

もう 1 つはそれをするために、今日すごくいいお話聞いたなと思っていたのが、女性の活躍する場を提供するというところだと思います。高度人材不足という

こともありますので、女性の高度人材っていう方が、丹後ではすごく住みやすく、働きやすく、かつ、社長になれるというような、そういう仕組みをしっかりと構築できれば、この北部のエリアで、発信力のある取り組みが、打ち出していけるんじゃないかなと思っています。

(以上をもって閉会)